

平成28年度 栃木県立足利高等学校 学校評価(アンケート結果)

評価対象	具体的な評価項目	アンケート結果						考察 及び 次年度に向けて	学校評議員評価 (感想・意見・評価)						
		教員	1年	2年	3年	全体	保護者								
学力の向上	1 生徒の学力向上に向け、意欲的かつ計画的にきめ細かな指導を行っているか。 生徒:学習全般に対して達成感・満足感を持っているか。 保護者:全般についての取り組みをどのように感じているか。	A	B	C	B	B	A	・2学年での達成感・満足感が低くなっている。保護者の9割からは高い評価を得られている。その他は例年通り。 ①生徒の学力を適切に把握し、個に応じた適切な学習活動を支援する。 ②引き続きICT機器の活用等により、生徒が主体的に学び合う学習環境作りを推進する。	・1年次より進学校の生徒として自覚させる指導が必要であると思われる。						
	2 生徒の興味・関心・意欲を喚起しながら、学力の定着に向け、様々な工夫をした授業を心がけているか。 生徒・保護者:全体として、授業内容に満足しているか。	A	A	A	A	A	A			・授業内容に関しての満足度は高い。 ①コースに応じて教科の達成目標や学習内容を明確にして、更なる学力の向上を図る。 ②今後も、校内授業研究会の開催や教員対象の教育研究セミナーへの参加を推進することにより、効果的な指導方法の継続的な工夫改善を図る。	・すべてのことにおいて、同じことをやっているとは同じことになってしまう、という共通認識を持って教育にあたってもらいたい。				
	3 生徒の家庭学習時間が増え、定着するよう工夫した指導を実践しているか。 生徒・保護者:計画的な家庭学習ができていないか。	A	C	C	A	B	B					・1,2学年の計画的な家庭学習の取組状況が低い、3学年では受験準備もあり計画的に学習に取り組んでいる。 ①自学自習の態度を養うため、「自主学習の記録」の効果的な活用の研究を進める。 ②面談等による学習への取組状況の確認や学習意欲の向上を図る。	・入学してから、学習時間が増えることは、指導の成果を現している。塾での学習時間も把握する必要がある。		
	4 生徒の実態や課題に応じて、学力を向上させるために、積極的に取り組んでいるか。 生徒:生徒の実態に応じて学力を向上させる取り組みに満足しているか。 保護者:効果的な取り組みを行っているか	A	A	A	A	A	B							・学力向上のための取り組みに対する満足度は概ね高い。 ①保護者に対して、学校の目標を明示し、授業公開等を通して開かれた学校環境を作る。 ②1学年選抜クラスの検証を継続し、各コースのあり方や習熟度別授業についても検討する。	・あと一押しすればできる生徒への指導を課外授業等を実施するなど、細かな指導を行っているところはいいところなので、更に充実させて欲しい。
	5 長期休業中の課外や土曜補習の成果が上がるよう、様々な工夫をして取り組んでいるか。 生徒:全体的に満足しているか。 保護者:効果があるか。	A	A	A	A	A	A								
6 生徒の適性や希望などを十分に把握しながら、適切な進路指導を実践しているか。 生徒・保護者:主体的な進路選択をする上で、本校の進路に関する援助に満足しているか。	A	A	A	A	A	B	・生徒・教員とも9割以上から高い評価を得ている。保護者への進路情報の提供が少ないとの意見もあるので検討が必要である。 ①保護者会等での進学状況や進路学習の計画を丁寧に説明し、保護者の理解を得る。 ②担任と進路指導部で連携し、進路相談や進路学習の充実を図る。 ③進路指導室を有意義に活用できるよう整備する。	・中学生の本校志望に関するデータを調査する必要があるのではないか。							
教科外教育活動の 活発化	7 部活動を通じた人づくりにむけ、積極的な指導を実践しているか。 生徒:部・同好会活動について、積極的に参加しているか。 保護者:部活動・同好会に対する学校の取り組みをどう思うか。	A	A	B	B	B			A	・1学年の生徒の評価が高く、学年が進むにつれて評価が下がる傾向にある。 ・部活動と学習の効率的な時間の使い方については、今後検討が必要である。 ①部活動を通じた人づくりをさらに推進していくために、教職員が人格の陶冶の大切さを生徒に伝え、校内での風気を醸成する。 ②学習への取組とのバランスを工夫し、文武両道を実践する。					
	8 生徒が学校行事や生徒会行事には積極的に参加し、充実感を友人とともに共有できるよう積極的に指導しているか。 生徒:満足しているか。 保護者:子息の満足度はどうか。	A	A	A	A	A			A			・高い満足度が現れているが、2学年の修学旅行に関しては改善意見も見られる。 ①生徒の活動がより活発になるように、行事の内容等をさらに工夫する。 ②学校の活動内容をホームページに公開し、より開かれた学校を目指す。 ③修学旅行に関して、他校の情報や、生徒・保護者の意見を把握し検討を進める。			
総括的評価	9 生徒が充実した学校生活を送れるよう、適切な指導・援助を実践しているか。 生徒:現在の足高での学校生活に満足しているか。 保護者:本校に入学させて良かったと思っているか。	A	A	A	A	A	A	・生徒の約8割、保護者の約9割から満足しているとの高い評価をいただいている。特に、生徒・保護者ともに高いのが1学年であり、若干であるが満足度が低いのが2学年である。 ①各部との連携を図り、教職員の意識を高め生徒の活動がより活性化するための委員会を立ち上げ検討していく。 ②きめ細やかな指導を実践し、生徒の個々の伸長に目を向けた教育活動を充実させる。							
連携 教育相談 生徒指導	10 保護者との連携に努めているか。 保護者:教職員との連携に満足しているか。	A	/	/	/	/	A			・概ね高い評価を得ているが、学校の様子が家庭に伝わっていないとの意見もある。 ①PTA総会や学年保護者会等で、情報提供・情報交換をして学校の現状を知らせる工夫をする。 ②保護者面談等で、生徒についての情報を共有する機会を今後とも大切にしながら、連携を進めていく。					
	11 生徒が相談しやすい雰囲気作りができていないか。 生徒:相談しやすい雰囲気があるか。	/	A	B	A	A	/					・1,3学年は高い評価であるが、2学年が67%と若干低い。 ①生徒に相談の窓口(教育相談係)を周知し、相談室の活用を図る。 ②担任を中心として面談の充実を図る。			
	12 マナーや規範意識を育む指導ができていないか。	/	/	/	/	/	A	・高い評価であるが、わからないという評価も18%あるので、本校の取組を理解してもらう工夫が必要である。 ①交通指導については、保護者と教員が連携して街頭指導を充実させる。学校においては全体集会(交通講話等)やホームルームにおける指導を徹底し交通事故を防止する。 ②社会の一員として、責任ある態度がとれるよう、規範意識を高める指導を重ねていく。							

評価基準	生徒・保護者 アンケートの①②合計の回答率	教員 アンケートの①②合計の回答率	*アンケート結果のアルファベットは次の通り。 上段:平成28年度(大文字) 中段:平成27年度(小文字) 下段:平成26年度(小文字)		
	70%以上	A (十分に成果があった)		80%以上	A (十分努力している)
	50%以上70%未満	B (成果があった)		60%以上80%未満	B (努力している)
	30%以上50%未満	C (少し成果があった)		40%以上60%未満	C (あまり努力していない)
	30%未満	D (成果がなかった)		40%未満	D (努力していない)